



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	1965-1966年度フランス公法文献紹介
Author(s)	中村, 睦男; NAKAMURA, Mutuo
Citation	北大法学論集, 17(4), 167-181
Issue Date	1967-03-28
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/16086
Type	departmental bulletin paper
File Information	17(4)_p167-181.pdf



一九六五—一九六六年度フランス公法文献紹介

中村睦男

本稿は一九六五年および一九六六年フランスで新たに刊行された公法に関する文献、即ち、憲法、行政法の文献紹介を中心にするものであるが、フランスにおいて政治学が研究、教育の両面にわたって特に憲法学と密接な関係をもっているので政治学に関する文献も重要なものは紹介しようとするものである。なお、本稿は主として「フランス政治学雑誌」(Revue française de science politique)および「フランスおよび外国公法・政治学雑誌」(Revue de droit public et de la science politique)の文献リストに基いて作成されたものであるが、重要な文献が落ちていた可能性もあり、不完全なものであることをあらかじめお断りしておく。

〈概説書〉

Maurice Duverger, *Sociologie politique*, Collection "Thémis", Presses Universitaires de France (以下 P. U. F. と略す), 1966. 625 p.

法経学部の講義科目に合わせて学生用に概説書を出しているシリーズとしてこの「Thémis」叢書と「Précis Dalloz」叢書があるが、本書は一年目の「政治社会学」にあてられたものである。デュヴェルジェ教授はパリ大学でこの講義を担当しているフランス憲法・政治学の第一人者であるが、この分野で最初の体系書。

本書の前半において政治社会学の概観が与えられ、後半は政党と圧力団体が説明されている。

Jacques Moreau, Georges Dupuis, Jacques Georget, *Sociologie Politique*, Editions Cujas, 1966.

Jacques Chapsal, *La vie politique en France depuis 1940*, Col-lection "Thémis", P. U. F. 1966, 580 p.

著書はパリ大学政治研究学院院长で、同政治学院での講義をもとにして書かれたもので、各章毎に詳しい文献紹介もついており、一九四〇年以後のフランス政治史の概観を知るのに非常に便利な本である。

Maurice Hauriou, *Précis de droit constitutionnel*, 2^e éd. Sirey, 1929, 759 p. *Réimpression en fac-similé*, 1965.

新刊書ではないが、デューギーと並んでフランス公法学の偉大な先駆者として不朽の業績を残したオーリューの憲法体系書が、この度、C. N. R. S. によって復版されたことは特筆すべきことである。この本の重要性については言うまでもないことであるが、この本において当時としては画期的な、厳密な法学的観点をこえた政治学的方法が取り入れられており、現在においても重要な新しさをもっていることだけを指摘しておく。

André Hauriou, *Droit constitutionnel et Institutions politi-*

ques, Editions Montchrestien, 1966, 826 p.

モーリス・オーリューの御子息でパリ大学で憲法を担当する著者によるもので、本書では、社会主義国およびいわゆる低開発国を含めた諸外国の制度の叙述にも多くのページがさかれ、比較憲法の研究に一時期を画する業績である。フランスの憲法体系書では伝統的にいわゆる西欧の憲法制度のみが対象とされていたが、一九四九年にヴェデル教授が資本主義と社会主義憲法制度との比較を試みた新しい体系書を出して大きく注目された。アンドレ・オーリュー教授これを更に低開発国にまで一歩進めたもので、特にヴェデル教授の憲法書が再版されていない現在、比較法の観点からなされた最良のものである。又本書で、父モーリス・オーリューとの理論的系譜がどうなっているか興味のあるところであるが、著者自身この本の中で「私は父の弟子と考えているし、父によって既に展開されるいは立案された理論を幾度か利用している」と書いているように、制度の理論や憲法上の均衡の理論など基本線を承継しているのも注目すべきである。

André de Labodère, *Traité élémentaire de droit administratif*, Tome III, *Librairie Générale de Droit et de Jurisprudence* (17^e L. G. D. J. 略号), 1966, 763 p.

パリ大学教授で行政法の第一人者の筆になるもので法経学部四

年度の講義にあてられている「公役務各論」(Grandes services publics et Entreprises nationales)のプログラムにそったものである。ロバティル教授は公役務論者としてこの「公役務法各論」を行政法の一環として説明している。内容は“Théorie générale de l'administration spécialisée — Le secteur des protections — Le secteur intellectuel — Le secteur soial — Le secteur de l'économie, L'interventionnisme et l'obligations économiques — Le secteur de l'économie, L'administration économique — Le secteur de l'économie, Les activités publiques, individuelles et commerciales — Les principaux régimes administratifs du secteur économique, Transports, communication, énergie”となっている。

ロバティル教授は、一九六三年に法経学部の新しいプログラムにそって行政法・体系書の第一巻(二年目の行政法、その内容は“L'organisation administrative — La fonction administrative et les actes administratifs — La Justice administrative — La police administrative et les services publics — La responsabilité administrative”となっている)および第二巻(三年目の行政法と内容は“La fonction publique — Les domaines administratifs — L'expropriation, la réquisition — Les travaux publics — La constructions — L'urbanisme — L'aménagement du territoire — Les

actions foncière et rurale”となっている),を刊行したが、この最後の第三巻によって完成し、総論および行政各部法を含む行政法各論に及び行政法の最も詳しい体系書としてフランスのみならず世界において最初のもので、その秀れた内容と合わせて今期に刊行されたものの中で最も注目すべき業績である。

— J. M. Auby et R. Ducos-Ader, Institutions administratives, Collection “Précis Dalloz”, Dalloz, 1966.

— Charles Delebasch, Institutions administratives, L. G. D. J., 1966. 327 p.

右二書は、法経学部経済専攻の二年目の講義にそったもので、行政一般論や行政と経済の関係などが説明されている。

— Bernard Gournay, Introduction à la science administrative, les administrations publiques dans les sociétés contemporaines, A. Colin, (Cahiers de la Fondation nationale des sciences politiques, 139.) 1966. 309 p.

— Pierre Lalumière et André Demichel, Les régimes parlementaires européens, Collection “Thémis” P. U. F. 1966. 625 p.

本書はヨーロッパ各国の議会制度について書かれたもので、フランスについては除外されている。まず八〇頁にわたる序説において議会制度の理論が展開され、その「法字概念」と「社会学的

料 概念」が説明されている。ついで第一篇は伝統的議會制君主政に

あてられ、イギリス、スカンジナビア、オランダ、ベルギーが扱われ、第二篇は議會制共和政でドイツ、イタリアについて書かれてゐる。

J. Roche, Précis de droit public, Dunod, 1965, 276 p.

〈公法叢書〉 (Bibliothèque de droit public)

ヴアリーヌ教授によって主宰されている博士論文の叢書で、後記の「憲法・政治学叢書」が刊行されるようになってから、主として行政法関係の論文が出版されてゐる。出版社は L. G. D. J.

— Tome 62. Gabriel Montagnier, Le Trésorier-Payeur général, 1965, 359 p.

— Tome 63. André Martin-Pannetier, Eléments d'analyse comparative des établissements publics en droit français et en droit anglais, 1966, 359 p.

第一部ではフランスの établissements publics administratifs とイギリスの "public bodies" が、第二部では établissements publics économiques と "public corporations" が比較検討された。

— Tome 64. Antoine Baroud, La situation juridique des jour-

nalistes au Liban, 1965, 187 p.

— Tome 65. Jean-François Lachau, La hiérarchie des actes administratifs exécutives en droit public français, Préface de Benoit Jeanneau, 1966, 344 p.

一九五八年憲法により議會による法律の傍らに行政の自律的命令制定権が生まれたが、ここから生ずる種々の問題、即ち、異った機関から発せられる行政の権限行使の階層がいかに成立するか、それがどのような結果を生じさせるか、古い規範と新しい規範がどのように調和するかといった問題に本論文は答えようとするものである。

— Tome 66. Claude Emeri, De la responsabilité de l'administration à l'égard de ses collaborateurs, 1966, 363 p.

公権力の責任についての問題はフランス行政法の大きな問題として最も古典的なものであるが、本論文はこれを行政に参与している者々の関係で問題を扱つてゐる。キヤ序論と Collaborateurs とは何かが検討され、第一部では行政の責任の根拠が、第二部では責任の実行、即ちいかなる条件でどのような制裁がなされるかが追及されてゐる。

— Tome 67. Thierry Cathala, Le contrôle de la légalité administrative par les tribunaux judiciaires, Préface de Jean

Rivero, 1966, 167 p.

フランスにおいて行政の適法性についての裁判上のコントロールは行政裁判所によってなされるのが建前であるが、今日、実際上司法裁判所によってなされることが非常に多い。この行政に対する司法上のコントロールについては数年来問題になってきているが、本論文はそれについて答えたものである。

— Tome 68. Francine Batailler, Le Conseil d'Etat, Juge constitutionnel, Préface de Georges Vedel, 1966, 675 p.

コンセイユ・デタの問題は、フランス公法研究の最も重要なテーマであるが、従来不思議にもこれについてまとまった研究は殆んどなかった。本論文は憲法裁判の観点からこの問題に真正面から取り組んだもので、コンセイユ・デタのみならずフランスにおける憲法裁判の問題を知る上にも重要である。六〇〇頁を越える分量のみならず内容的にはヴェデル教授が序文で称賛するように「本書は十分に思索され仮借なく追求された業績で、今後多数の人達に読まれ、引用されることであろう」という大論文である。

— Tome 69. Paul Sabourin, Recherches sur la notion d'autorité administrative en droit française, 1966.

“autorité administrative”の法的概念を体系的に追求した最初のものである。

— Tome 70. Francois Vincent, Le pouvoir de décision unitaire des autorités administratives, 1966.

行政機関は伝統的に私人に対して一方的に権利を付与し、義務を課する権限をもつものであるが、本論文の第一部はこの行政の権能と権限の行使を詳しく検討し、第二部では行政機関内部において行使される権限 (pouvoir du chef de service, pouvoir institutionnel 等) を分析している。

— Tome 71. Lucien Slez, Essai sur la contribution du doyen Hauriou au droit administratif français. Préface de Jean Rivero, Avant-propos d'André Hauriou, 1966, 520 p.

モーリス・オーリユエがフランス行政法および行政法学に与えた影響は絶大なものであるが、このオーリユエの学説を体系的に扱った勿論最初の業績である。全体は三部に分かれ、第一部と第二部でオーリユエ行政法学の内容および発展が分析され、第三部ではこのオーリユエ学説の影響を扱っている。非常に丹念に資料が検討され、五〇〇頁以上にわたる論文にまとめられたこの業績はきわめて注目すべきものである。

〈憲法政治学叢書〉(Bibliothèque constitutionnelle et de science politique)

ビュルドオ教授が主宰、憲法・政治学に関する博士論文を刊行

資 料 じつじゆ。出版社は L. G. D. J.

— Tome 11. Jean Michen-Puyou, Histoire électorale du département des Basses-Pyrénées sous la IIIe et la IVe Républiques, Préface de Léon Bérard, 1965, 390 p.

— Tome 12. Michel Halberg, L'Etat, son autorité, son pouvoir (1890-1962), 1965, 652 p.

まず、国家の一般理論の諸局面を検討してから、著者は多かれ少かれ権威を無視する体制と強力な権威を構成しようとする体制とを対照している。このような基礎に基いて、著者は過去八〇年間フランスで構成されてきた国家の一般理論の中で、権威の觀念によつてなし遂げられたものの現実を明らかにしようとしている。

— Tome 13. Gilbert Borroli, Sociologie du référendum dans la France contemporaine, 1965, 415 p.

本書の第一部でまず一九四五年來フランスで行われたレフェレンダムの歴史が扱われ、第二部では、レフェレンダムがそれを惹き起した政治的状況およびそれに関係した政治家の意見と関連させて社会学的に分析している本格的な研究。

— Tome 14. Pierre Lux-Wurm, Le péronisme, Préface de Jean Jaques Chevalier 1965, 272 p.

ペロニスムについてフランス語で書かれた最初のものとして注目される。

— Tome 15. Bernard Prunieres, La presse sans politique. Etude systématique de la presse lu dans le Calvados, Préface de René de Lacharrière, 1966, 421 p.

著者は十分な資料を用いて本書の中で、地方新聞の非政治化現象をカルヴァドスの例に基いて説明している。

— Tome 16. Alain Bockel, La participation des syndicats ouvriers aux fonctions économiques et sociales de l'Etat, 1965, 662 p.

第二次大戦後フランスでは行政的および経済的機能の中に労働者の代表が参加することが多くなつたが、本書はこの労働者の参加の問題を単に制度の説明だけでなく、詳しい実態の調査に基いて六五〇頁以上にわたる論文の中で集大成したものである。全体は四部からなり、第一部では労働者の参加についての各種の法文を、第二部では一九四五年以後のその歴史、第三部では各種の機関における労働者の代表参加の様式および実態を検討し、第四部では労働者参加についての諸問題を検討し、理念としての正当性と実際上の難しさを説明している。

— Tome 17. Jean-Paul Buifélan, Le complet du 13 mai

- 1958 dans le sud-ouest. Préface de Louis Périllon, 1966. 226 p.
- Tome 18. Geneviève Carnus, *L'état de nécessité en démocratie*, Préface de Georges Morange, 1965. 428 p.
- 国家の保護のため権力を一つの機関に集中させることを不可欠にさせる緊急事態は常に憲法の学説や判例の反対又は沈黙に会っているが、本書は、緊急事態を法文の中で認め、一定の条件に服せしめることが、政治体制が民主的であることを望む国家にとって一層必要であることを主張している。著書はまず序説で緊急事態の定義を与えその憲法上の地位について明らかにした後、第一部では緊急事態に対して民主主義の伝統が敵意的であること、しかし実際にはそれを容認することが避けられないことを示し、第二部では緊急権行使の条件を詳細に検討している。本書はフランス憲法学説上の空白を非常に高度の内容をもって埋める業績として高く評価されている注目すべき論文である。
- Tome 19. Jean Airiau, *L'opposition aux physiocrates à la fin de l'ancien régime*, Préface de Robert Viller, 1965. 184 p.
- フイジオクラートとその反対者との間の論争を惹き起した穀物貿易の問題を説明してから、本著者は後者の自由貿易論者の経済社会理論を分析している。
- Tome 20. Claude Palezzoli, *Les régions italiennes, contribution à l'étude de la décentralisation politique*, Préface de Jean-Louis Quenonne, 1966. 622 p.
- Tome 21. Gérard Soulier, *L'inviolabilité parlementaire en droit français*, 1965. 382 p.
- 議員特権の問題につき、第一部でその理論的基礎を追及し、第二部でその適用領域と運用を扱っている。
- Tome 22. Paul Leloy, *L'organisation constitutionnelle et les crises*, Préface de Georges Lavan, 1966. 328 p.
- 本書の第一部で著者は危機時の憲法組織は執行権の優位と立法権および司法権の低下によって特徴づけられることを説明し、第二部では第五共和政下の危機時の憲法組織を一六条を中心に論じている。第三部では危機時の憲法組織の平常時のそれに対する影響の問題を扱い、統治者は一たん平常時にかえっても危機時の権限の使用を保持しようとするような間接的影響があることを論じている。
- Tome 24. Charles Rizk, *Le régime politique libanais*, Préface de Duverger, 1966.
- 以上みてきたようにこの二年間で兩叢書から出版された博士論文だけでも二〇篇以上を数えている。最近の博士論文の傾向は、

今まで取り上げられていなかった問題でしかも重要な問題に取り組み、その成果が非常に良く表われていることと、資料を丹念にあたり量的にも大部のものが多くなっていることである。フランス公法学会でこのような新しい重要な業績が続出していることは、フランス公法学の伝統の深さと研究歴の厚さを何よりも物語っている。

〈パリ大学法経学部研究叢書〉 (Travaux et Recherches de la Faculté de Droit et des Sciences Economiques de Paris)

本叢書は主としてパリ大学法経学部大学院の高等研究修士証 (Diplôme d'Études Supérieures) のメモリアルとして提出された論文を出版している。一九六四年から始まり、各論文一〇〇頁前後のものであるが、いずれも一定の学問的評価を受けているもので、重要な叢書である。

○政治学シリーズ

No. 1 Francine Batailler, Alain Schifres et Claude Tannery, *Analyses de Presse*, Préface de Georges Vedel, 1964.

No. 2. Eliane Guichard-Ayoub, Charles Roig et Jean Grange, *Études sur le Parlement de la V^e République*, 1965. 296 p.

“Du caractère représentatif du Sénat à travers les élections

du 26 avril 1959”, “L'Évolution du Parlement en 1959”, “La fixation de l'ordre du jour des assemblées parlementaires” の三つの論文が掲載されている。

No. 3 Jean Gicquel et Lucien Sfez, *Problèmes de la Réforme de l'État en France depuis 1934*, Préface de Maurice Duverger, 1965, 286 p.

“Le problème de la réforme de l'État en France en 1934”, “Les idées constitutionnelles des socialistes français (1944-1964)” の二論文で、後者は幾人かの社会主義者の文獻やインタビューに基き国家制度の改革の問題を解決するための提案を検討したもので、興味ある論文である。

No. 4 Jaqueline et Philippe Godfrin, *Une centrale de presse catholique : la Maison de la Bonne Presse et ses publications*, Préface de Jean Rivero, 1965. 240 p.

前半は特に夕刊紙 *La Croix* を取っており、後半はカトリックの他の刊行物一般を分析している。

No. 5 Roger Reibel et Pierrette Rongère, *Socialisme et éthique*. Préface de Jean Jacques Chevallier, 1965. 124 p.

“Bucheux” と “Henri de Man” の二人の社会主義者の思想がそれぞれ、一人の著者によって別々に倫理の面から扱われてい

30°

No. 6 Thiébaud Floy, Le mouvement régionaliste français, sources et développements, Préface de Marcel Prélot, 1966. 131 p.

No. 7. Christian Purtschet et André Valentino, Sociologie électorale en Afrique du Nord, Préface de Georges Burdeau.

○公法シリーズ

No. 1 Pierre Delvolve et Henry Le Guillons, Le contrôle parlementaire sur la politique, économique et budgétaire, Préface de Georges Berlia, 1964.

No. 2 Yves Daudet, La présidence des Assemblées parlementaires. Préface de Georges Berlia, 1965. 148 p.

議会の議長についての研究は今まで殆んどなされていらないので、本論文は貴重な業績である。

No. 3. André Santini, L'aide de l'Etat à la presse, Préface de C.-A. Colliard, 1965. 96 p.

今まで取り上げられなかったテーマについて、しかも特別の資料を明快に駆使した興味ある研究である。

No. 4. Jurisprudence constitutionnelle de la Cour Suprême des Etats-Unis (1961-1963). Texte français et observations établies

par Patrick Juillard, sous la direction de Roger Pinto, 1965. 240 p.

〈フランス憲法・政治に関するその他の文献〉

— La science politique, Revue de l'enseignement supérieur, 1965, No. 4. S. E. P. F. N., 1965.

政治学とは何か、政治学の方法、政治学の現状等政治学に関する諸問題について、フランスの代表的学者が論文を寄稿している。フランスにおける現在の政治学研究と教育の現状を知るのに便利な特集である。

— Carré de Malberg 1861-1935. Relation des Journées d'études en honneur de Carré de Malberg, organisées par la Faculté de Droit et des Sciences politiques et économiques de Strasbourg, 1966, Dalloz.

— Actes de colloques socialistes de 1964, La pensée socialiste contemporaine, P. U. F. 1965. VIII-384 p.

非共産党系左翼の研究会の報告と討論を取めたもので、フランスの現代の社会民主主義者のイデオロギー問題、政治制度などについての考え方を知るのに興味ある文献である。

— Centre Catholique des Intellectuels Français, Pouvoir et

料
société, De l'entreprise à l'Etat. Desclée de Brouwer (Recherches

et débats, 53), 1966, 192 p.

資

「政治権力の特殊性が存在するか」の問題について一連の論文がまとめられており、Georges Lavanu および Léo Hamon のような憲法・政治学者が政治権力の特殊性を擁護し、社会学者が政治権力も他の社会の権力と同一性があることを主張している。

— Institut international de philosophie politique, *L'Idée de philosophie politique*, Annales de philosophie politique 6, P. U. F. 1965. 193 p.

“Paul Barrid, *L'Idée de Philosophie politique*”, Bertrand de Jouvenel, *Ce qui est la Politique pure*”, “Henri Batiffol, *La liberté contractuelle et la loi*”, “Dolf Sternberger, on the concept of the “living Constitution”, “Sergio Corta, *La notion de Constitution dans ses rapports avec la réalité sociale*”, “Pierre Arnaud, *Le Colloque sur l'idée de Constitution*” 等の論文が収録されている。

— Paul Bastid, Benjamin Constant et sa doctrine, 2 vol., Armand Colin, 1966. 1112 p.

著者はフランス憲法史の第一人者で既にこの領域において幾つかの大きな研究を発表しているが、本書では自由主義思想家ハン

ジャン・コンスタンを扱い第一巻は “L'homme et le citoyen” と題し彼の伝記をたどり、第二巻の “L'oeuvre et les idées” では彼の人格、政治思想、立憲主義、社会経済観、国際観など諸分野に分けて彼の思想を分析している。著者のポール・バステイド教授が序で自ら書いているように、本書の題名は教授が既に二

五年以上も前に発表した “Seyès et sa pensée” の題を想い起すものであるが、これはシェイエスとコンスタンが公法学者として同一線上にあること、即ち、個人的自由が二人の共通の、そして唯一の宗教であり、この二つの著書は互いに相補うものであるからである。更にバステイド教授はこの二人の思想家は社会の激動期にあって権力を前にして自由な人間として立っており、彼等の信念は同時に著者のそれであり、大きな共感をもって本書を書いたことを表明している。詳しく資料が検討され、本書の学問的価値は言うまでもないであろう。

— Felix Ponteil, *Les institutions de la France de 1814 à 1870*, P. U. F. 1966. 489 p.

フランス公法—政治史の大家の筆によるもので、右記期間中のフランスの制度史を知るのに格好の文献である。

— Felix Ponteil, *Histoire de l'enseignement*, (1789-1965), Sirey, 1966.

- J.-P. Cordelier, La théorie constitutionnelle de Joseph de Maistre, I. A. C., 1965. 192 p.
- Yves-Maxime Danov, Histoire postale et libertés politiques, L. G. D. J., 1965. 95 p.
- Raymond Aron, Essai sur les libertés, Calmann-Lévy, 1965. 240 p.
- Pierre Avril, Un président pour quoi faire ? Préface de Georges Vedel, Le Seuil, Collection Jean Moulin, 1965. 157 p.
- 著者は、既に「憲法・政治学叢書」の tome 8. “Le Régime politique de la Ve République” においてこの問題について本格的かつ秀れた研究を発表しており、この新しい研究の中では大統領制度に対する其感を示している。
- Gaston Monnerville, Le Sénat, Institution fondamentale d'une République démocratique, Serpic, 1965. 60 p.
- 著者は現在元老院の議長で、本書の中に上院擁護の主要な議論の要約を見出すことができる。
- Gaston Bouthoul, Sociologie de la politique, P. U. F. (Coll. “Que sais-je ?), 1965. 128 p.
- Jean Lacroix, Crise de la démocratie, crise de la civilisation, Lyon, Chroniques sociales de France, 1965. 132 p.

- Jacques Ellul, L'illusion politique, essai, R. Laffont, 1965. 269 p.
- C. Rabany, Guide générale des élections, 1965.
- André Jabin, Manuel général des élections, Ed. Berger-Levrault, 1965.
- Jean Paul Charney, Les scrutins politiques en France de 1815 à 1962, contestations et invalidations, A. Colin, (Cahiers de la Fondation nationale des sciences politiques, n° 132), 1965. 282 p.
- Jean Paul Charnay, Le suffrage politique en France, élections parlementaires, élections présidentielles, référendums, La Hayer, Mouton et cie, 1965. 832 p.
- François Goguel, (sous la direction), Le référendum d'octobre et les élections de novembre 1962, A. Colin, (Cahiers de la Fondation nationale des sciences politiques, n° 142), 1965. 438 p.
- Gérard Bergeron, Fonctionnement de l'Etat. A. Colin, 1965. 661 p.
- Jean-Luc Chalumeav, Les relations politiques de l'Etat. SEDEIS, 1965, XII-201 p.

— René Rémond, La vie politique en France depuis 1789, 1789-1848, A. Colin. (Collection U. Série contemporaine T. I.), 1965. 424 p.

— Uline Coutrot et François-G. Dreyfus, Les forces religieuses dans la société française, A. Colin, (Collection U. série Société politique), 1965. 344 p.

— Marcel Merle, Pacifisme et internationalisme. XVII^e-XX^e siècles. Textes choisis et présentés par Marcel Merle, A. Colin, (Collection U. série Idées politiques), 1966. 360 p.

— André Passeron, De Gaulle parle, 1962-1966. Fayard, 1966. 451 p.

トコール大統領の右期間の演説や記者会見等を各項目別に分類してまとめたもので、このうち、制度についてのものが全体の三分の一を占めており、憲法についてのトコール自身の考え方や第五共和制の政治制度の実態を知る上にも重要な資料である。

— Maurice Montuclard, Conscience religieuse et démocratie, Le Seuil, 1965. 288 p.

— Jacques Fauvet, Histoire du Parti communiste français, I. De la Guerre à la guerre, 1917-1939 : II. Vingt-cinq ans de drames, 1939-1965, Fayard, 1964 et 1965. 288 et 407 p.

— Christian Purtschet, Le Rassemblement du Peuple Français, 1947-1953, Préface de C. A. Colliard, Avant-Propos de Marcel Prélot, Ed. Cujas, 1965. 402 p.

— Françoise Mayeur, L'Aube, Etude d'un journal et opinion, 1932-1949. Préface de René Rémond, A. Colin (Cahiers de la Fondation nationale des sciences politiques, n° 144). 1966. X-237 p.

— Jean Lhomme, Pouvoir et société économique, Ed, Cujas, 1966. 314 p,

— Georgette Elgey, La République des illusions, 1945-1951, ou la vie secrète de la IV^e République, Fayard, 1965.

— Varin d'Ainvelle, La presse en France. Genèse et évolution de ses fonctions psycho-sociales, P. U. F., 1965. 254 p.

〈外国憲法政治に関するその他の文献〉

— Constitutions d'Asie et d'Australaisie. Sous la direction et avec une préface et des notes de Henry Puget. Ed. de l'Épargne. (Centre nationale de la recherche scientifique. Centre français de droit comparé. Travaux et recherches de l'Institut de droit comparé de l'Université de Paris, 26) 1965. 932 p.

アフガニスタンから日本まで、外蒙古からニュージーランドまで東洋の二八カ国の憲法正文集で、フランス語で書かれた最初のまとまった東洋諸国憲法正文集である。

各国の歴史的・政治的性格を知るのに便利なノートがついている。

- Paul-Marie Gaudemet, *Le pouvoir exécutif dans les pays occidentaux*, Ed. Montchrestien, 1966. 119 p.
- Louis Baudouin, *Les aspects généraux du droit public dans la province de Québec*. Préface de René David, Dalloz, (Collection "Les systèmes de droit contemporain" tome 17), 1965. 432 p.
- Claude-Gilles Gour, *Institutions constitutionnelles et politiques du Cambodge*, Dalloz, 1965. 448 p.
- Charles d'Eszlary, *Histoire des institutions politiques hongroises*, tome III, M. Rivière et cie, 1965. 450 p.
- Jean Paul Chasseriaud, *Le parti démocrate chrétien en Italie*, A. Colin, (Cahiers de la Fondation nationale des sciences politiques, n° 125), 1965. 426 p.
- Jean Meynaud, *Les partis politiques en Italie*, P. U. F. (Que sais je ? n° 1199), 1965.
- Albert Mabileau et Marcel Merle, *Les partis politiques en*

- Grande-Bretagne*, P. U. F. (Que sais-je ? n° 1174), 1965. 127 p.
- Dimitri-Georges Lavroff, *La République du Sénégal*, Collection "Comment ils sont gouvernés," dirigée par G. Burdeau, L. G. D. J., 1966. 258 p.
- Knapp et Mleynar, *La Tchécoslovaquie*, Collection "Comment ils sont gouvernés" L. G. D. J., 1965.
- Gilbert Tixier, *Le Ghana*, Collection "Comment ils sont gouvernés"), L. G. D. J., 1965. 195 p.

〈フランスに政治に関するもの他の文庫〉

- Roger Aubin, *Communes et démocratie*. T. I : *Tâches et moyens de la Commune*. Ed. Ouvrières, 1965. 248 p. T. II : *Les communes et le pays*, 1965. 243 p.
- Anne-Marie Guigue, *La politique d'action régionale et le problème corse*, Nancy, Publication du Centre européen universitaire, 1965. 128 p.
- André Trintignac, *Aménager l'hexagone, villages, villes, régions*, Ed. du Centurion, 1965. 304 p.
- Institut européen d'études et de relations intercommunales, *Pouvoirs locaux en Europe*, L. G. D. J., 1965. 151 p.

- Olivier Guichard, *Aménager la France*, R. Laffont-Gonthier, 1965. 248 p.
- F. J. Fabre, *Les marchés des collectivités locales*, Berger-Levrault, 1965. 188 p.
- Claude Alphandéry, *Pour une politique du logement*, Le Seuil, 1965. 141 p.
- Michel Cépède et Gérard Weill, *L'agriculture*, P. U. F., Collection *L'Administration française*, 1965. 528 p.
- J. Phytiles, N. Kisliakoff, H. Spiterre et G. Frêche, *Questions administratives dans la France du XVIII^e*, P. U. F., 1965. 218 p.
- François Retournaud, *Le rôle et l'influence de l'Assemblée des présidents des Conseils généraux dans la vie publique française depuis 1946*, Fondation nationale des sciences politiques, 1965. 116 p.
- Colette Cantelaube, *La responsabilité décennale des entrepreneurs en droit public français*, Ed. Eyrolles, 1966.
- Georges-Philippe Bloch, *La notion de travail public*, Librairies techniques, 1965. 210 p.
- D. Musso, *Le nouveau régime de l'expropriation*, Delmas, 1965.
- L. Jacquignon, *Le droit de l'Urbanieuxe*, Ed. Eyrolles, 1965. 156 p.
- André Poissonnier, *La rénovation urbaine*. Collection "L'Administration nouvelle", Berger-Levrault, 1965.
- *Semaines sociales de France*, *L'homme et la révolution urbaine*, Citadins et ruraux devant l'Urbanisation, *Chronique sociale de France*, 1966. 408 p.
- Pierre Gautron, *Le régime juridique des eaux non domaniales*, Ed. de l'actualité juridique, 1966. 247 p.
- Robert Cathérine, *L'Industrie*, Collection "L'Administration française", P. U. F., 1965. 356 p.
- R. Cathérine et P. Gausset, *L'Etat et l'essor industriel*, *Du dirigisme colbertier à l'économie concertée*, Collection "L'Administration nouvelle", Berger-Levrault, 1965. 231 p.
- J. Magnet, *La Cour des comptes*, Collection "L'Administration nouvelle", Berger-Levrault, 1965. 237 p.
- Jean Louis Crémieux-Brilhac, *L'éducation nationale*, Collection. *L'Administration française*, P. U. F. 1965.
- Michel Vermot-Gauchy, *L'éducation nationale dans la Fran-*

ce de 1975, Ed. du Rocher, 1965. 333 p.

— Gérard Antoinne et Jean-Claude Passeron, La réforme de

l'Université, Calmann-Lévy, 1966.

(筆者はフランス政府給費留學生としてポワチエ法学部において

研究中——編集委員註)